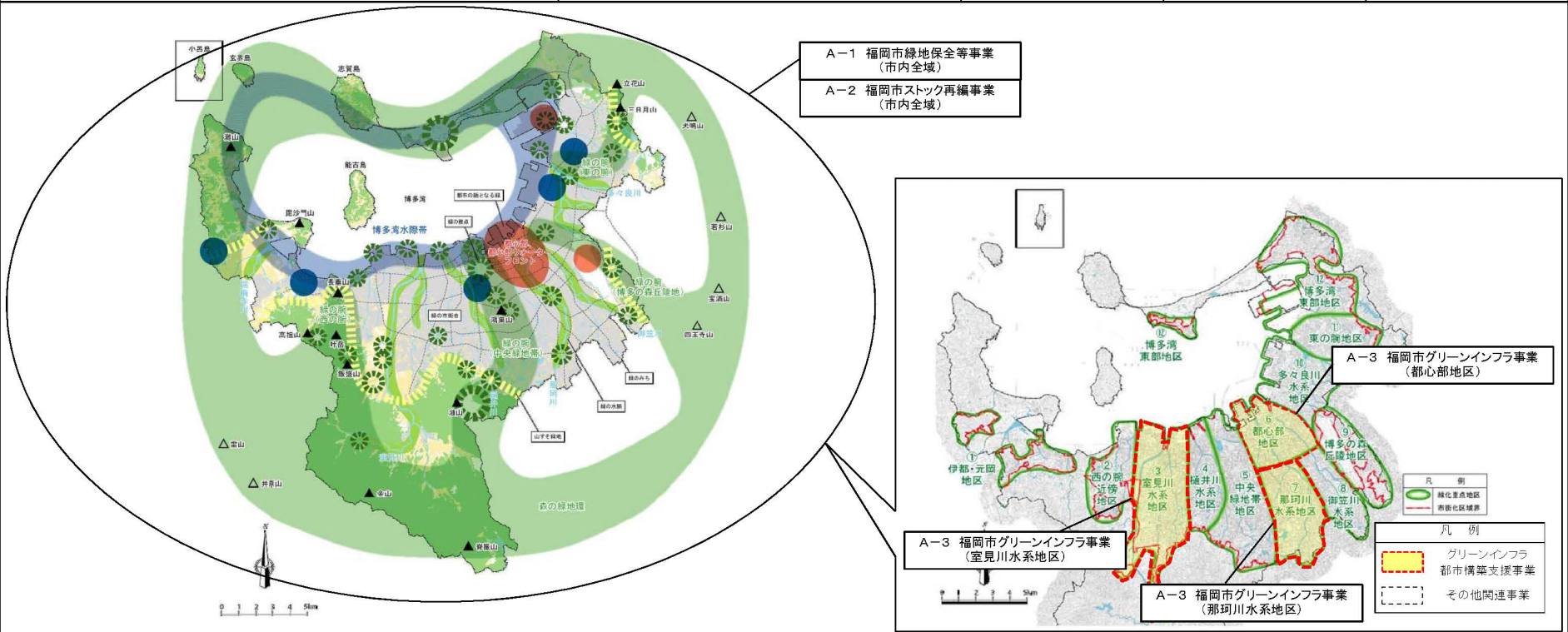


都道府県名	福岡県	市町村名	福岡市	計画の名称	風格ある緑豊かな環境共生都市・福岡		
計画期間	令和2年度～令和6年度	事後評価実施時期	令和6年度	全体事業費	828百万円	国費率	1/2

		要素事業名					
1)事業の実施状況	対象事業	A 基幹事業	○福岡市緑地保全等事業 ○福岡市グリーンインフラ事業 ○福岡市ストック再編事業				
		B関連社会資本整備事業	-				
		C効果促進事業	-				
		その他関連する事業	-				
	進捗状況	A 基幹事業	要素事業名	事業内容(延長・面積等)		事業進捗(令和6年度末時点)	次期計画
			○福岡市緑地保全等事業	特別緑地保全地区6地区用地取得、1地区(緑地)施設整備		一部完了	実施予定
			○福岡市グリーンインフラ事業	1公園用地取得、9路線街路樹整備、5公園施設整備		一部完了	実施予定
			○福岡市ストック再編事業	3公園施設整備		一部完了	実施予定
		B関連社会資本整備事業					
C効果促進事業							
	その他関連する事業						
2)事業の効果発現状況	成果目標の達成状況 ※算定対象	指標名	当初現況値	目標値	実績値	結果の分析及び目標値と実績値に差が出た要因	
		福岡市域における緑被面積	18,920ha	18,920ha	18,994ha ※ R4 年度	緑地保全や公園・街路樹整備等の取り組みにより、目標値を達成した。	
		身近な地域において緑が豊かであると感じている市民の割合	30%	55%	31.0% ※ R5 年度	市全域および都心部における緑被面積は増加しているものの、「身近な地域において緑が豊かであると感じている市民の割合」は目標値を達成できなかった。身近な地域の緑とは、身近に緑地や公園、街路樹があるか否かによって回答が左右されるものであることから、公園整備等は進めているものの、アンケートの割合は横ばいとなっていると考えられる。	
		福岡都心部における緑被面積	97ha	105ha	100ha ※ R4 年度	当初現況値を上回っており、都心部での公園や街路樹の整備などにより、一定の成果が出ていると考えられるものの、目標値には達成できていない。引き続き、公園・街路樹整備に取り組むとともに、令和5年2月に始動した「都心の森1万本プロジェクト」を推進することで、みどり豊かな都市空間の創出に取り組む必要がある。	
		成果目標以外の要素事業の効果発現状況 (定性的な効果)	・福岡市緑地保全等事業について、都市の中に残る緑地を保全することにより、良好な景観と都市環境を創出。 ・福岡市ストック再編事業について、小規模公園の統廃合により公園機能を集約し、公園利用者の使い勝手を向上。 ・福岡市グリーンインフラ事業について、道路や河川工事に合わせて、街路空間や川沿いに緑のネットワークを形成。				
3)その他	今後の方針	・福岡市緑地保全等事業について、引き続き、永続的に良好な緑地を確保していく。 ・福岡市ストック再編事業について、引き続き、市民ニーズに合わせた身近な公園を整備していく。 ・福岡市グリーンインフラ事業について、引き続き、公園・緑地や街路樹整備により、自然環境が有する多様な機能を最大限に活用し地域課題の解決を目指していく。					

「風格ある緑豊かな環境共生都市・福岡」の成果概要

事業の目的	成果指標	当初現況地	目標値	実績値
本市の「緑」に関する総合計画である「福岡市新・緑の基本計画」(平成21年5月策定)に基づき、福岡市域における緑の面積の総量を維持するとともに、地元参加等の手続きを経た公園ストックの再編だけでなく、グリーンインフラとしての活用を推進することで、市民の豊かな生活空間や、市民が身近な緑や公園に親しみを持てるような、風格ある緑豊かな環境共生都市・福岡を創造する。	①福岡市域における緑被面積	18,920ha	18,920ha	18,984ha ※R4年度
	②身近な地域において緑が豊かであると感じている市民の割合	30%	55.0%	31% ※R5年度
	③福岡都心部における緑被面積	97ha	105ha	100ha ※R4年度



主な事業効果	・緑地保全事業については、緑地保全や新たな公園整備により緑を創出することで、福岡市域における緑被面積の総量を維持することができた。 ・ストック再編事業については、地域のニーズを踏まえてリニューアルなどすることで、市民が身近な緑や公園に親しみを持てるまちづくりを進めた。 ・グリーンインフラ事業については、公園や緑地、街路樹などの整備において、自然環境が有する多様な機能を活用し、地域課題の解決を図った。
--------	---